



だより



R7.12.9 Vol.31

#### 愛のみかん運動

今年も愛のみかん運動を実施しました。昨年の校長室だよりに目を通して、長らく続いているこの活動の素晴らしさについて触れていました。半世紀以上続くこの活動。子供の頃にあんなことした！こんなことした！そんな活動はたくさんありますが、子供の頃、経験し、今、親の立場で、あるいは祖父母の立場でこの活動を見守っている。他の学校の様子を見てもなかなか見当たらない特色ある活動だと思います。

今年もお手伝いをしてもらったみかんを学校に持ってきたこの子たちが親になった時も、ふるさと真穴で自分たちの子供たちにお手伝いのご褒美にみかんを持たせてやる。そんな光景が広がることを願った日でした。



#### 気をつけよっと！

ある会合の帰り道、友人と外で夕食をとりました。そんなに混んでいる感じではなかったのですが、従業員さんが少ない時間帯だったのでしょうか。注文をなかなかとりに来てくれません。こちらから言いに行くと「すみません。もう少しお待ちください。」待っている間に二組のお客さんが入ってきて、同じように待っていました。店の方が注文をとりにきました。その後、先に来た組の方から注文を聞いていたようでした。するともう一組の2人が、「もういいです！」と店を出ていきました。明らかに腹を立てている様子です。わたしたちが一番長く待っていました、店の方も順番に注文をとっていました。

世界は自分中心に回っているわけではないですね。校長には注意してくれる人はいません。気をつけたいなあと思いながら、替え玉をした友人との久しぶりの夕食でした…。

#### 四方山話真穴 ver2. 其の三十一(後悔先に立たず)

先日、職員室である先生と、自分たちの親についての話になりました。私は両親も義父母も亡くなっているのですが、話の中でふと、ある思いが。決して親不幸をしてきたわけではないと思っています。が、まだ親たちが元気な頃、散歩がてらとか、時には差し入れを持って、休日、私の家に顔を出してくれることがよくありました。「ありがとう。なんか変わったこと？用事？」と聞くと「いや、ちょっと寄っただけよ。孫たちは元気か？」「うん。」「…じゃあまたの。」「うん。」そんな感じでした。邪険にしていたつもりもないのですが、自分に孫ができ、それを溺愛するバカじいじになってはじめて、「ちょっと上がっていく？」なぜこの一言が言えなかったのか。もう決断することのできない一言が後悔になって押し寄せてきました。孫に合わせたくないわけでも家に上がらせたくないわけでもなく…でもその時、自分がしていることや、やりたいことを優先していたのでしょうね。

息子嫁が刺身に目がなく、先日も「魚釣れたんやけど食べる？」と連絡すると「食べます！取りに行きます！」と二つ返事。仕事から帰り、早速刺身にして待っていたのですが、どうも孫の機嫌が悪いらしく、取りに行けないとの連絡が。「無理せんでいいよ！」と連絡し、結局仕事帰りの息子が家に寄って持って帰りました。その後、『今日は孫に会えなかったなあ』と一人黄昏れていると、孫の画像と「今度また行きます！」とメッセージがラインで送られてきました。その画像を見ながら『俺は親にそんなことしてなかったよなあ』とまた後悔…。しかし後悔だけでは前は向けません。少しの気遣いと心配り。それができる大人になりたい…もとい！（もう大人でした！泣）それができる爺やになりたいと思います。今更何ができるかわかりませんが、頑張ります。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。